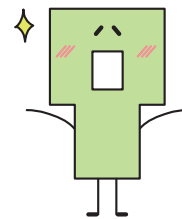


# 史跡弘法山古墳の令和2年度発掘調査

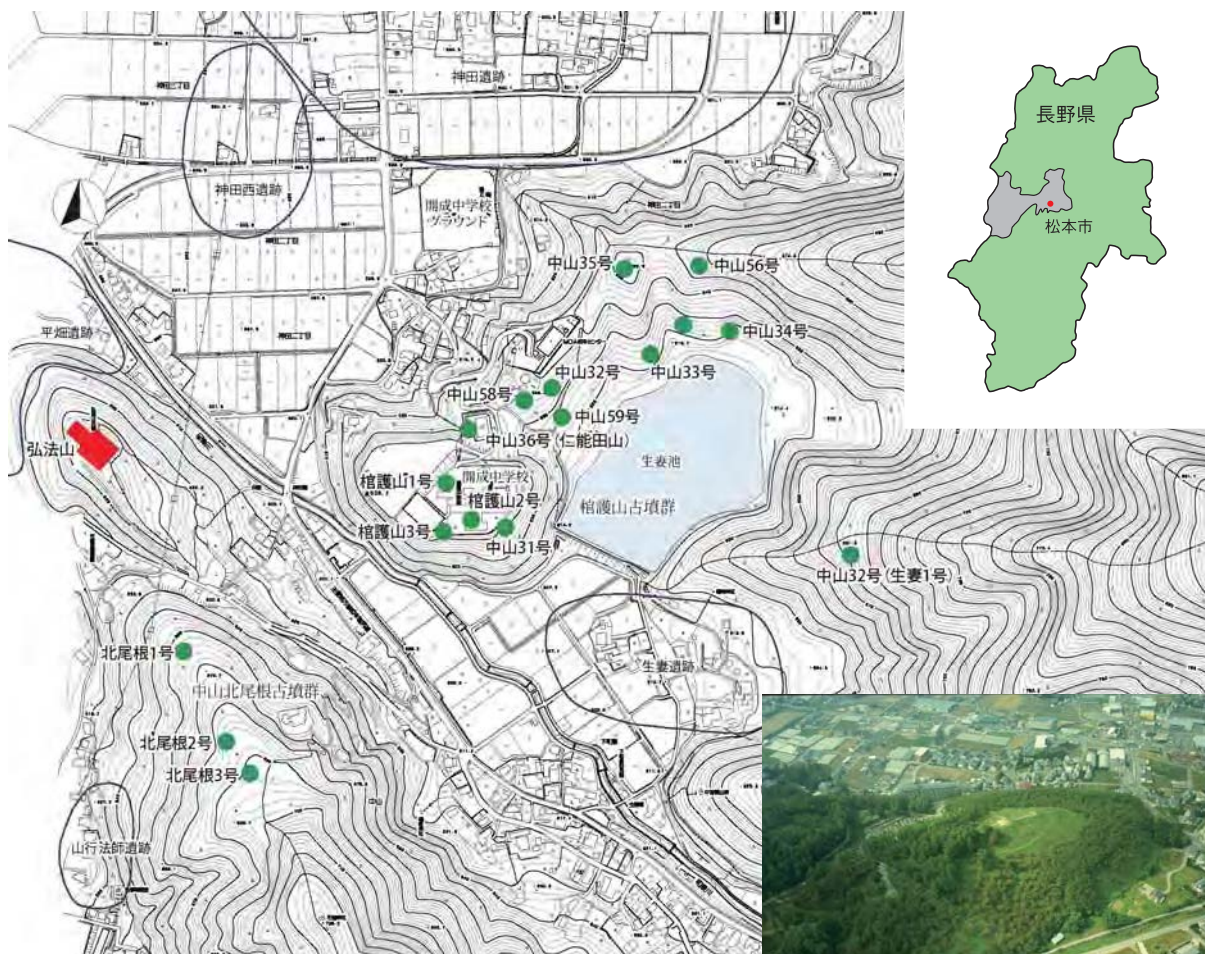
## 1 調査の概要

- (1) 遺跡の所在 松本市並柳2丁目、松本市神田2丁目
- (2) 調査の目的 史跡弘法山古墳再整備事業
- (3) 調査期間 令和2年6月8日～継続中
- (4) 調査面積 約50㎡



## 2 遺跡の概要

弘法山古墳は松本市東部にある中山丘陵の北端に立地する全長約66mの古墳です。丘陵の先端部に古墳があることは以前から知られていましたが、明治以降に畑地になっていたこと、第二次世界大戦の末期に高射機関銃が据えられていたことなどから、昭和49年に発掘調査が実施されるまで、大半が破壊されてしまった古墳であると認識されていました。発掘調査は学校の運動場建設に先立って実施され、調査の結果、弘法山古墳は東日本最古級にあたる3世紀末に築造された前方後方墳であることが判明しました。その後、昭和51年に国史跡に指定され、昭和57年には史跡公園として整備がされ、現在は桜の名所としても親しまれています。



古墳の位置



### 3 昭和 49 年の調査成果

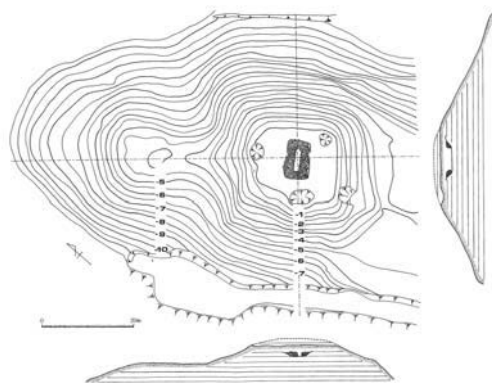
#### (1) 墳丘

【墳形】前方後方墳

【墳丘長】約 66m

【外表施設】石列確認（葺石となるかは不明）  
墳輪は未確認

【築造年代】3 世紀末



弘法山古墳 墳丘実測図

#### (2) 埋葬施設

埋葬施設は長さ 5.5m、幅 1.32m、深さ 0.93m の  
竪穴式石室で、後方部の中央に主軸とほぼ直交するよ  
うに位置しています。竪穴式石室を構築する石は河原  
石が用いられており、これらは松本平に集まる複数の  
河川から運搬されたと考えられます。石室内は黒土を  
入れて固く締めており、天井石は確認されていません。



昭和 49 年の調査で確認した竪穴式石室

#### (3) 副葬品

じょうほうさくけいうきぼりしきじゅうたいきょう

【銅鏡】上方作系浮彫式獸帯鏡 1 面

【装身具】ガラス小玉（首飾り・手首飾り）738 点

【武器】鉄剣 3 点、銅鏃 1 点、鉄鏃 24 点

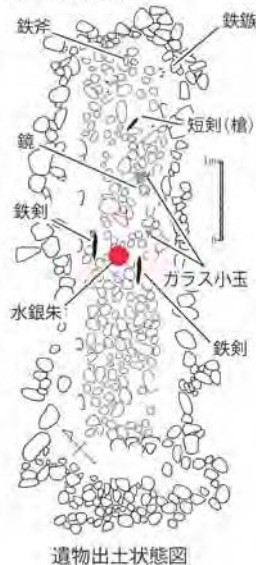
【工具】鉄斧 1 点、  
鉋（木の表面を削って平らに仕上げるための工具）1 点



石室から出土した銅鏡

面径は 11.65 cm で、銘文に「上方作竟自有  
□青□左白帛居右」とあり、青竜と白虎の 2  
対が薄肉彫りで表現されています。銘文から、  
中国の皇帝直属の工房で製作され、日本に伝  
来した、舶載鏡であることが分かりました。

副葬品の配置



遺物出土状態図

#### (4) 出土土器

竪穴式石室の直上から、壺 10 点、高杯 10 点、器台 2 点、甕 2 点、手焙形土器 1 点  
などの土器がまとまって出土しました。祭  
祀などの目的で用いられた可能性が考えら  
れます。これらの土器は東海地方の特徴を  
有することから、被葬者は東海地方と深い  
関わりがあった人物であったと推定されま  
す。



弘法山古墳から出土した土器

いでがわにし

## ● 出川西遺跡 ●

出川西遺跡は、弘法山古墳から西に1,200mの南松本駅北側一帯に広がる遺跡です。平成25年に実施した発掘調査では、古墳時代前期の竪穴住居の壁際から、土器11点が1～2列に並べ置かれた状態で出土しました。これらは、松本の特徴を持つ土器と、東海地方の特徴を持つ土器の2種類がみられました。このことから、出川西遺跡一帯は、弘法山古墳の被葬者が拠点とした集落であった可能性が推定されます。



出川西遺跡から出土した土器

## 4 史跡弘法山古墳再整備事業

### (1) 弘法山古墳を理解するための課題

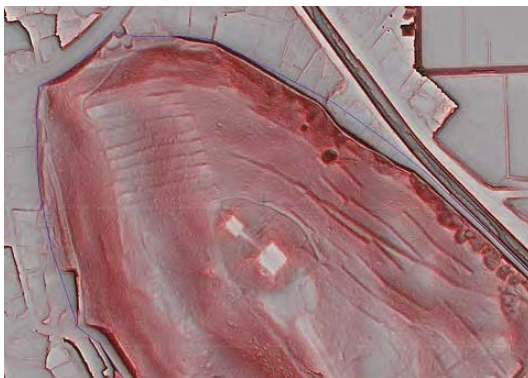
- ア 前回は埋葬施設が中心となる限定的な調査であったため、墳丘の正確な形態や規模、外表施設や周辺遺構（陪塚など）の有無などが判明していない
- イ 弘法山古墳と周辺にある古墳群や集落との関連が未解明
- ウ 弘法山古墳の整備から40年以上が経過したため、整備や活用の見直しが必要



発掘調査などによって弘法山古墳の新たな価値を発見し、その成果を整備や活用に活かして、弘法山古墳の魅力を伝えたい

### (2) 整備に向けて実施している事業

- ア 赤色立体地図の作成：地形測量により弘法山古墳及び周辺の遺構分布を確認
- イ 関連古墳群調査：弘法山古墳に後続する周辺古墳群の調査（東海大学と協働で実施）
- ウ 弘法山古墳発掘調査：古墳の形態・規模などの確認



赤色立体地図（弘法山古墳周辺）



中山56号墳の測量

方眼紙に計測点を落とし、等高線や墳丘の形などを記入しています。

### (3) 礫

A・Bトレンチともに、10～20 cm程度の礫がまとまって確認された箇所がありました。この礫は角礫だけでなく円礫も含まれていることから、河川から持ち込まれた可能性が考えられます。礫の出土箇所は後世の溝や墳丘外にあたり、葺石など古墳に関わる礫となるかは現段階で不明です。



Aトレンチで確認した礫

溝状の掘り込みの中に礫が入っています。後世の土地利用の際の痕跡と考えられますが、用途は不明です。



Bトレンチで確認した礫

墳丘の外側でまとまって礫が確認されました。葺石が崩落したものの可能性が考えられますが、詳細は不明です。

### (4) 墳裾ふんすそ（古墳の端の部分）

裾部じやまの調査から、弘法山古墳は地山を削って整形してから土を盛っていることが判明しました。この地点は後方部の中央から約17mになることから、後方部の幅は約34mになると予想されます。



Aトレンチ裾部

白色の線は地山を削った箇所です。

## 6 まとめ

- (1) 弘法山古墳は裾部の地山を削って整形した後に、土を突き固めて築造されていることが判明し、非常に丁寧な造りであることが分かりました。
- (2) 古墳の規模を決定するための裾部は、後方部の2カ所で確認することができました。
- (3) 葺石の有無は今回の調査で明らかにすることはできませんでした。しかし、多量の礫が確認されたことから、今後の調査が期待されます。
- (4) 今回の調査で陪塚などの周辺遺構は確認されませんでした。

弘法山古墳は来年度以降も発掘調査を実施し、古墳の基本的なデータを集め、再整備に向けての準備を進めていきます

